



どうぞよろしく申し上げます

保護者・地域の皆様、昨年度から引き続き校長を務めさせていただきます、中村 博朗（なかむら ひろあき）です。保護者や地域の方々の温かさに支えられ、山東小学校6年目になりました。山東小学校は、豊富な地域人材や学校林「横山」、サツマイモ等が栽培できる「山東農園」など、教育資源が実に豊かです。この豊かな教育資源を生かして、子どもたちがのびのびと成長していけるよう、今年度も取り組んでまいります。保護者、地域の皆様のご理解とご協力の程、何卒よろしく願いいたします。

今年度も「一人一人のよさを大切に」する学校を目指します。自分のよさ（強み）をいかして、集団の中での役割はもちろん、自分自身の成長につなげていく、そんな一人一人を大切にしたい学校です。そして今年はさらに「自己決定力」を高めていきます。自分のよさ（強み）をいかして、自分で決め、自分で取り組んでいけること。このことが、熊本市が掲げる教育基本理念「豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え主体的に行動できる人を育む」ことにつながります。

この学校便りの名前は『鎧（かすがい）Ⅱ』としました。昨年度に続き、学校、保護者、地域をつなぐ鎧（かすがい）となれるように、学校の状況や方針など様々なことをお知らせしていきます。どうぞよろしく願いいたします。

新任の先生紹介

新しく5名の先生が、本校に来ていただくことになりました。

森 佳子（もり よしこ）先生、太田 大貴（おおた だいき）先生、
武田 真紀（たけだ まき）先生、坂本 公徳（さかもと きみのり）先生、
内田 美香（うちだ みか）先生です。

職員一同、全力で取り組みます。どうぞよろしく願い致します。



太田 大貴 先生

武田 真紀 先生

坂本 公徳 先生

森 佳子 先生

内田 美香 先生

※裏面に全職員名簿を載せております。ご覧ください。

1 校長	中村 博朗	16 学校運営サポーター	西橋 美穂
2 教頭	岡崎 康臣	17 学級支援員	長谷部 素子
3 教務主任・算数専科	松木 洋志	18 給食副主任	佐藤 法子
4 1年担任	浦山 美保	19 学校主事補助	坂本 公德
5 2年担任	重藤 照文	20 給食調理	内田 美香
6 3年担任	森 佳子	21 図書司書補助	峰 政子
7 4年担任	坂口 美月	22 事務補助	前田 智恵子
8 5年担任	太田 大貴	23 給食調理補助	馬場 るみ
9 6年担任	田中阿沙美	24 給食調理補助	吉畑 薫
10 なかよし1組担任	野口ひとみ	25 給食調理補助	中山 恵理子
11 なかよし2組担任	渡辺 祐実	26 給食調理補助	藤原 裕美
12 理科専科・TT	佐藤 治樹	27 ALT	マイケル・レオンカバロ
13 外国語専科	北森 麻衣子	28 育休中	前田 愛実
14 養護助教諭	緒方 彩乃	29 育休中	佐藤 恵美加
15 事務職員	武田 真紀	※外国語専科の北森先生は桜井小所属	

校長コラム① 反省と感謝は本人の内側からしか湧いてこない

昨年度1回目の校長コラムでは「叱られる子、大好きです」というお話をしました。今年度1回目は、私が教職大学院で教えていただいた言葉についてです。

「反省と感謝は本人の内側からしか湧いてこない」

周囲からみて悪いことをした時に、「反省しなさい」と言ってもなかなか反省はできません。事実確認を丁寧にしていく中で、本人が「これは悪かったな」と心で感じた時に初めて反省の気持ちが湧いてきます。ですから、子ども同士のトラブル等の解決では、事実確認がとても重要で時間がかかる時があります。また、「一人を悪者にしない」ということも大切です。結果には必ず原因があります。関係者全員が自分にもかわりがあり、どうすればトラブルにならなかったのかみんなで考えることで、「自分もこうすればよかったな」と解決策がみえてきます。子どもたちはどうしても「自分だけが悪者にされている」と感じやすいのですが、決してそうではありませんのでご安心ください。

また、感謝の気持ちも本人の内側からしか湧いてきません。ただ、感謝の気持ちは、社会に出た時にとっても役立ちます。感謝の気持ちを大切にすると、周囲からも感謝され、大切にされるからです。そのため、学校では様々な人への「感謝」の気持ちを育む活動を行います。先生方に対する感謝の気持ちも同じです。

ただ、先生方への感謝の気持ちは、自分で自分に感謝しなさいとはなかなか言えません。私もそうでした。例えば、先生の給食配膳。私は若い頃、子どもたちにそんなことをさせるのはおかしいと思い、自分で準備していました。しかし、次第にそれは違うと考えるようになりました。やはり、子どもたちの成長を考えた時に、先生等の食事の準備をすることは、子どもたちが社会に出た時に必ず役立つのです。もちろん本当は子どもたちの内側から「先生の食事を準備したい」と思えるのが理想です。しかし、私たち教師も人間です。そんな完璧ではないのです。ただ、自分がそんなに尊敬できる人ではないからといって、子どもたちの将来に役立つであろう教育を放棄するわけにはいかないのです。建前でいいから、普段お世話になっている方の食事をちゃんと準備する等の習慣を身につけさせていかなければなりません。けっして相手が偉いからというわけではないのです。

私もまだまだ未熟です。退職までに子どもたちが心から感謝の気持ちを湧き上がらせることができるほどの教師にはなれないかもしれません。ただ、今は、感謝されるに足る人になるための努力をし続けることで、自信の拠り所にしています。人が人を教え導くということは本当に難しいものです。しかし難しいからこそやりがいもあります。私の天職です。